

## 第11章 呼吸療法サポートチーム (Respiratory care Support Team; RST)

定例会議を各月1回(4月および5月を除く)、計10回開催し、その内容を含めて以下のような活動を行った。なお、2021年1月～3月の3回は、オンラインと会議室の併用開催とした。

### 1. RST ラウンド

- ・2014年11月に病棟ラウンド(RSTラウンド)を開始した。週1回(1回30分)多職種で呼吸療法・ケアを受けている入院患児のベッドサイドを回診している。ラウンドメンバーは、医師、看護師(2020年度は新生児集中ケア認定)、臨床工学技士および理学療法士である。
- ・2020年は年度初めから緊急事態宣言下であったため、ラウンドは7月15日に再開し、2021年3月17日までのラウンド回数は8回、延べ患者数は13人(うち4件は同一人物)であった。
- ・基本的には、呼吸ケアチーム加算が算定可能な体制で運営している(算定はできていない)。
- ・新病院移転後は一般病棟のみを対象とし、主にPICU/HCU退室後の患者(呼吸器症状があったもの)のベッドサイドを巡回した。ほかに在宅人工呼吸器患者や慢性疾患合併症としての呼吸器症状ケアへの評価・助言を行った。
- ・毎月の定例会議で、ラウンド内容と問題点を報告した。病院全体で共有すべき事項については、RSTニューズレター等の手段で広報・啓発するようにしている。

### 2. RST ニューズレターの発行

- ・呼吸療法・ケアに関する基本的な知識やトピックを院内に紹介する目的で、ニューズレターを発行している(不定期)。
- ・第40号(2020年8月):「在宅用人工呼吸器の加温加湿器で、在宅でも自動給水を選択できるようになりました」、第41号(2020年12月):「在宅人工呼吸器の回路を開放した時にアラームが鳴ることを確認してください」。

### 3.『呼吸療法・ケアガイドブック』の増補・改訂

- ・院内のすべての部署および職種で共通して活用できる、小児患者用の呼吸療法・ケアの手引きを目指して、改訂を適宜行っている。
- ・2020年度は全面的な見直しを行っている。
- ・「気管切開・喉頭気管分離・挿管管理の『ベッドサイドチェックシート』『緊急時対応フローシート』運用について」を追加した。

### 4.医療安全活動

- ・気管切開/喉頭気管分離のベッドサイド表を改訂し、各病棟の定数を確認して配布した。
- ・定例会議において、セーフマスターに入力されたインシデント事例の検討をおこなっている。

## 5.災害時アクションカードの作成

- ・ 在宅人工呼吸器や在宅酸素など、医療的ケアに 電源 を利用している患者の災害・停電時に備えた対策の検討を開始した。
- ・ 自助・公助の準備の一環として、災害時アクションカードを作成した。
- ・ このカードの運用を検討するとともに、当センターとしての取り組みを促すことも検討している。

## 6.その他の活動

- ・ 院内各病棟・部署で、もはや使用されることがなくなった酸素療法物品の定数をそれぞれ見直してもらい働きかけを行った。
- ・ 2016 年に「コメディカルスタッフによる喀痰吸引」の研修を受けた理学療法士に対して、当時の履修内容に含まれていなかった閉鎖式 気管 吸引の研修を受けてもらうためのプログラムを改訂し、医療安全管理室に提出した（研修は 2020 年 12 月に実施された）。
- ・ 排痰補助装置の在宅指導手順一式を改訂した。

(田中 学)